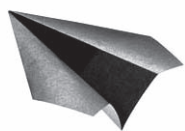


2014

夢の続きを語ろう



史跡武蔵国分寺跡から出土した1200年前の「あぶみ瓦（軒先の丸瓦）」をかたどった姿と、ちよつと頼りなげなやさしい表情、細く長い2本の脚が特徴の「にしこくん」。
デザイナー・西尾有未さんが生み出した東京・西国分寺エリアのご当地キャラクターが今、全国はもとより海外でも徐々に人気を集めている。
出会った人たちの心を、ゆるく、やわらかく、温かいもので満たしながら。

にしこくんに出会った人が 笑顔になつてくれたらうれしい

見た人が思わず笑う
表情に込めた思い

武蔵国分寺公園の南と北をつなぐ「ふれあい橋」のたもとに描かれたあぶみ瓦。大学時代、近くに住んでいた西尾有未さんは、散歩の途中によくそれを眺めていた。

「就職が決まって引越すことになったとき、大好きな西国分寺に何か恩返しをしたいと思ったんです。と言っても、学生にそれほど大きなことができるわけもなく、考えついたのがキャラクターをつくることでした」

西国分寺という名称は、駅名にはあるが、地名としては存在しない。国分寺市のほか府中市や国立市の一部にも、「地元は西国分寺」と自認する人は少なくないという。西尾さんは、「そのぶんやり加減、ゆるさがないにしこくんらしいですよ」と笑う。
あぶみ瓦をモチーフにしたキャラ



クターとすることも、初めて見た人が必ず驚くあの脚をつけることも、ほぼ直感で決めた。ただし顔の表情にはかなり神経を使ったと西尾さんはいう。

「左右の眉は非対称で、太さも傾きも違うんです。今の時代、『がんばり過ぎ』の顔を見るのはつらい人も多いと思うので、出会った人の力が抜けて思わずほほえむような表情にしたいと思いました」

自治体などに属さない「非公式キャラクター」のにしこくんは、初めはソーシャルネット・ワーキング・サービス(SNS)内だけの存在

だったが、人気が広がるのにそれほど時間はかからなかった。誕生の翌年に出場した「ゆるキャラグランプリ2011」で3位に入賞(優勝はくまモン)、今やグッズはどれも売れが続き、ゲームアプリのユーザーは海外にも広がる。
「伝える力と合わさったとき、初めてデザインは力を持つものだと思います。SNSの普及した時代に生まれたにしこくんは、その点でもフッキーでした」
何か少しでも世の中に
変化を生み出したい

中に少しでも生まれることが、彼女にはうれしい。
「私自身も、にしこくんを通して変わりました。瓦ってこんなに表情があって愛せるものだと今まで知らなかったの、今年は今全国の窯元を見てまわる『瓦女子』をめざします(笑)」
もともと「ゆるい」という言葉には肯定的なニュアンスだけがあるわけではないが、にしこくんがゆるキャラと呼ばれることに、西尾さんは抵抗がないという。
「ゆるいね、と言ってくださるとき、みなさんともいい笑顔になるからです。ゆるいという形容詞は、にしこくんにとって最高の褒め言葉だと思います」
そう言ってほほえむ彼女のなつかしい表情は、にしこくんにごこか似ている。



にしこくんの行くところにはいつも西尾さんの姿がある

デザイナー・アートディレクター

西尾有未さん

にしお・ゆみ/1988年神奈川県出身。日本大学芸術学部デザイン学科卒業。ゆるキャラ「にしこくん」の生みの親であり、にしこくん関連グッズのデザインや、にしこくんSNSプロモーションのプランニング全般を手がける。240 PLANNING OFFICE代表取締役。「新しい価値観の創造」をテーマに、デザインからプランニングまで活動分野を広げている。